

令和5年度事業報告

1 概要

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に位置付けられ、これまでの外出自粛要請や行動制限が無くなったことにより、イベント等の開催など日常生活や経済活動においてもコロナ前の活気が戻ってきました。薩摩川内市シルバー人材センター（以下「センター」という。）においても、グラウンドゴルフ大会の開催や、スマホ教室の開催など、少しずつではありますが会員同士の交流ができ、活気が戻ってきました。

センター事業の推進に重要な指数である会員数については、年度当初において減少しましたが、その後の入会説明会の定期的な開催など会員の勧誘活動等を行った結果、昨年度を上回る会員数となりました。

請負・委任事業では、受託件数は減少しましたが、就業延人員・契約金額については増加に転じました。派遣事業については、受託件数・契約金額については増加しましたが就業延人員は減少しました。請負・委任事業及び派遣事業の合計では受託件数が減少しました。

デジタル化の推進では、ホームページをリニューアルするとともに、「Web 入会」及び「Web 受注」を開始しました。また、デジタル利用促進事業を活用して、会員のデジタルリテラシーの向上を目的とした「スマホ教室」を開催しました。

※デジタルリテラシー・・・デジタル技術について、十分理解し、効果的に活用するためのスキルや能力のこと

安全・適正就業については、安全パトロールや「シルバーだより」による安全に対する注意喚起を積極的に取り組んでまいりました。その結果、損害賠償責任事故については昨年を下回りましたが、傷害事故については昨年をわずかに上回る結果となりました。損害賠償責任事故においては、9件中5件が草刈り時における飛石の飛散による物損事故でした。今後、飛散防止対策の更なる徹底が求められます。

事業運営については、引き続き業務の効率化や経費の節減に努めることで、支障が生じないようにしました。

2 事業実績（派遣事業を含む）

① 目標値に対する実績

区分	会員数	受託件数	就業延人員	契約金額
目標値	562人	5,667件	55,093人	311,647千円
実績	582人	5,466件	54,431人	313,877千円

② 前年度に対する実績

区分	会員数	受託件数	就業延人員	契約金額
前年度	564人	5,557件	54,014人	305,537千円
実績	582人	5,466件	54,431人	313,877千円

3 実施内容

センターが行う公益目的事業は、

- 1 就業機会拡大事業
- 2 普及啓発事業
- 3 安全・適正就業推進事業
- 4 快適住環境支援事業

の4事業です。令和5年度の公益目的事業に関する取り組みは次のとおりでした。

(1) 会員組織の充実と活性化（公益目的事業 2 普及啓発事業）

- ① センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」の精神を基本に、会員相互の連帯感の醸成や作業の効率化・活性化を目指しました。
- ② 会員の交流を目的として「陶芸教室」を開催しました。（男性会員の参加もありました。）
- ③ 剪定・整枝講習を実施し、会員等の技能習得に努めました。
- ④ 「シルバーだより」を毎月発行し、情報の共有を図りました。
- ⑤ 高齢者がデジタル化から取り残されないように「スマホ教室」を開催しました。

(2) 会員確保運動の強化（公益目的事業 2 普及啓発事業）

- ① 入会説明会を定期的実施し、新入会員の獲得に積極的に取り組みました。
- ② ハローワークにおいて、会員勧誘のチラシ配布を行い、入会説明会の参加に繋げるとともに、ハローワーク主催の「シニア世代のための求人活動セミナー」において、センターのPRを行いました。
- ③ 令和6年3月に「広報せんでがわ」を発行し、センター事業のPRと会員募集を広く周知しました。
- ④ シルバー人材センター事業普及啓発促進月間である10月に、市内の大型店舗において会員募集チラシを配布し、センター事業をPRしました。
- ⑤ ホームページをリニューアルし、「Web入会」の機能を追加し、入会希望者の利便性の向上を図りました。
- ⑥ 4年ぶりにグラウンドゴルフ大会を開催し、会員同士の交流を図りました。また、カラオケ同好会が復活し、定期的にはカラオケ大会を開催しました。

(3) 就業機会の開拓・拡大（公益目的事業 1 就業機会拡大事業 4 快適住環境支援事業）

- ① 常に発注者の立場にたった就業を心掛け、地域に期待され信頼されるセンターとなるように努めました。
- ② 就業場所においては「のぼり旗」を設置するとともに、丁寧な就業等に努め、センターのイメージアップの向上を図りました。
- ③ 一般労働者派遣事業においては、高齢者活用・現役世代雇用サポート事業を積極的に活用し、案内チラシの効果的な配布とコーディネーターを引き続き配置し派遣事業先の新規開拓に努めました。

- ④ 刃物研ぎ事業については、産業祭において広く市民に周知しました。また同時にシルバー事業をPRするチラシも配布しました。
- ⑤ ホームページをリニューアルし、「Web受注」の機能を追加し、発注者の利便性の向上を図りました。
- ⑥ 「ふるさと納税返礼品」事業として墓守りサポートの事業を推進するとともに、空き家等の維持管理に取り組みました。

(4) 安全・適正就業の推進（公益目的事業 3安全・適正就業事業）

- ① 安全衛生大会を開催し、安全就業に対する心掛けなどを学びました。
- ② シルバー就業は安全第一であり、「安全はすべてに優先する」という会員心得を最優先に、作業現場の事前確認を確実に行うとともに、作業開始前のミーティング実施による危険個所の把握など安全就業に努めました。
- ③ 安全・適正就業委員会において、事故等の検証を行い再発防止に努めるとともに、賠償責任事故を起こした会員に対しては注意書を発行し再発防止を促しました。
- ④ 毎月10日を安全の日と定め、安全パトロールを実施しながら、作業現場での看板、のぼり旗の設置及び安全ベストの着用を徹底し、会員の事故防止に努めました。
※安全パトロール実施箇所数 17カ所
(川内：8、東郷：2、樋脇：1、入来：2、祁答院：2、甕：2)
- ⑤ 就業中における事故やケガの発生状況や発注者等からの苦情を、毎月発行する「シルバーだより」で会員へ周知し事故や苦情の防止に努めました。

(5) 地域社会への貢献（公益目的事業 2普及啓発事業）

地域社会への貢献の一環であるボランティア活動の実施については、本土地域は「燃ゆる感動かごしま国体薩摩川内市クリーンアップ作戦」に清掃ボランティアとして参加しました。また甕地域においては公共施設等の清掃作業を行いました。

※ボランティア活動参加者 148名

(6) 事務局体制の充実と強化（公益目的事業の推進に必要な事務局の活動）

- ① センター職員と会員が風通しのよい関係を保つために、会員・理事・役職員全体が働きやすく、明るい環境づくりに努めました。
- ② 見積制度への移行については、見積見直し検討委員会において協議を進めながら、見積制度への移行に取り組みました。
- ③ 収支の見込みを適切に行い、事務局の経費節減に努めながら堅実な運営に努めました。
- ④ 適格請求書等保存方式（インボイス制度）への対応については、10月分から事務費を引き上げ対応しました。

令和5年度事業報告には、法人法施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため、附属明細書は作成していません。